

社会科学学習指導案

授業者 笈田太郎
学年・学級 3年2組
場 所 3年2組

1 単元 「店ではたらく人 ～これからのスーパーマーケットについて考えよう！～」

2 授業づくりについて

本学級の児童は、これまで市の様子や農家の仕事について学習してきた。その中で、複数の立場の視点で社会的事象を捉えてきた。農家の学習では、「生産者」と「消費者」という2つの立場から、生産者が消費者のニーズに応えるために様々な工夫や努力していることを理解することができた。また、単元の最後には、学習したことをいかして自分たちが住んでいる地域について考える活動を行った。市の学習では、加東市の様子を学習した後、自分たちが住んでいる市の様子をポスターで表現した。今後も、様々な立場から社会的事象を捉え、幅広い視点で社会の仕組みを理解し、自分たちが住む地域の事象へ活用できる単元を設定していきたい。

本単元では、地域にあるスーパーマーケット（以下スーパー）を見学・調査する活動を通して、販売に携わる人々が売り上げを高めるために多様な消費者のニーズを踏まえた取り組みを行っていることや、持続可能な社会につながる貢献をしていることについて考えることをねらいとしている。近年、スーパーに加え、コンビニエンスストアやドラッグストア、eコマースなど、食料品に関する小売業が多様になってきており、店舗の入れ替わりが多くなっている。その中、多くのスーパーは、それぞれの強みを生かし、「ファイブ・ウェイ・ポジショニング（価格・サービス・アクセス・商品・経験価値）」の5つの観点で他店と差別化を図ろうとしている。本単元では、規模の異なる「ボン・マルシェ」と「イオン」を取り上げる。ボン・マルシェは、地域密着型を掲げ、地産地消の取り組みや地域の団体への寄付などを行い、身近な地域が持続するための取り組みを行っている。また、「CGC(シジシージャパン)」に加盟し、他の企業と共同でPB(プライベートブランド)や電子マネー(「CoGCa」)を導入している。また、成城石井やコストコの商品を販売したりすることで、商品やサービスの向上を図っている。全国展開しているイオンは、消費者のニーズに応えるために、PBである「トップバリュ」を開発・販売している。近年、イオンは2030年までに使い捨てプラスチック使用料を2018年比で半減するという目標を設定し、2025年までに全てのトップバリュ商品を環境配慮3R商品に切り替える方針を打ち出している。どちらの店舗も、社会貢献活動を通じてマーケティング効果をねらう「コーズリレーテッドマーケティング」の手法を取り入れている。他社と協力しながら、消費者のニーズや地域社会へ貢献するボン・マルシェと、大手の強みをいかし、多様な商品開発を通して消費者のニーズや社会全体へ貢献するイオンを比較し、それぞれの良さを見出しながら、子どもたちが生産者・消費者、そして販売店の立場から売り上げを高めるための様々な取り組みについて問い直すことに本単元の意義がある。

以上のことを踏まえて、以下の3つのことを大切に、単元を構成する。1つ目は、持続可能性に関わる社会問題と出合わせることである。導入で加東市の飲食料点小売店の数が減っている問題を提示し、誰にとってどのような問題なのかを問い直し、未来のスーパーについて追究する契機をつくる。2つ目は、複数のスーパーを比較し、それぞれの取り組みを様々な立場から多角的に問い直すことである。見学・調査する際には、「ファイブ・ウェイ・ポジショニング」を参考に、「ねだん」「サービス」「レイアウト」「商品」「貢献」の5つの視点で整理できるようにする。特に「貢献」は見学でも見えづらいため、「トップバリュ」の環境配慮3R商品化や地域団体への寄付、地産地消などの取り組みを取り上げ、「生産者」「消費者」「販売店」にとってどんな良さがあるのかを考えられるようにする。3つ目は、単元で学んだ知識や見方・考え方を自分たちが住んでいる地域に活用できる場を設定することである。導入で行った買い物調べから、身近にある飲食料点小売業を1つ選び、それぞれの取り組みの良さをポスターなどにまとめて表現させる。個人で作成したポスターを交流することで、スーパー以外の飲食料点小売業も、売り上げを高めるために様々な取り組みをしていることを捉えさせたい。

3 単元目標

地域にあるお店を見学・調査し、生産者や消費者、販売者の立場に立って考えることを通して、販売の仕事は、売り上げを高めるために消費者の多様なニーズを踏まえた取り組みだけでなく、持続可能な地域や社会に貢献する取り組みも行なっていることを理解できるようにする。

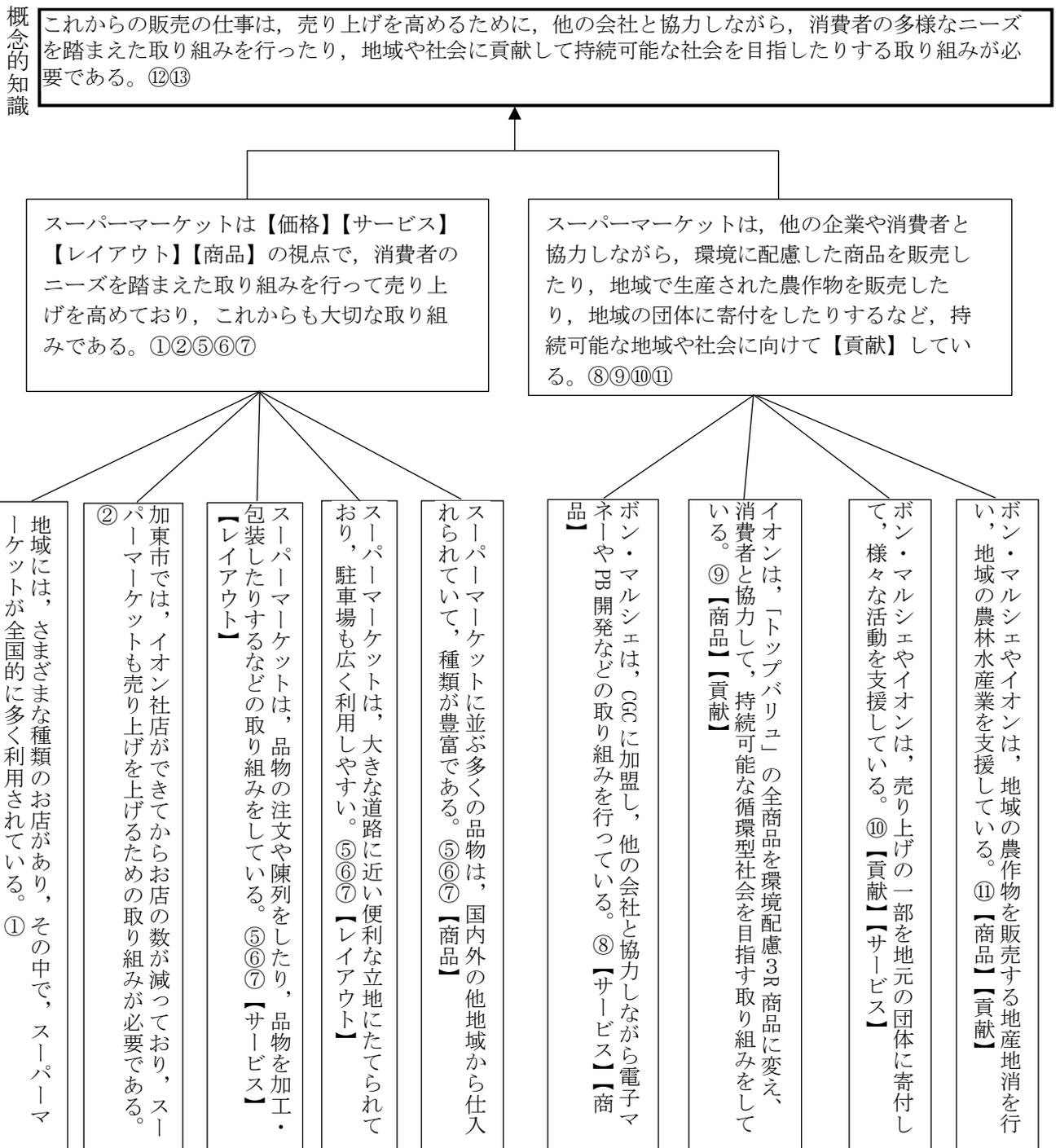
4 単元計画（全16時間） ○1時間 ◎2時間 ●3時間

| 時間 | 学習活動 | 教師の働きかけ | 評価の視点 |
|---|---|--|---|
| 第1次 ② 社会問題との出会い | <ul style="list-style-type: none"> ○買い物調べを行い、買い物に多く利用されているお店について考える ○加東市のお店が減っている背景を考え、課題意識をもつ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前に関心のあるお店についてアンケートをとり、交流することで、地域には様々な種類の店があることや、目的に応じて利用する店が違うことに気づかせる。 ・そもそもお店は必要なのかを問い直し、様々な立場の方が困ることに気づかせ、課題意識をもたせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域には様々な店があり、その中でもスーパーマーケットを利用する人が多いことを理解している。 ・お店が減ることで起きる問題を様々な立場から考えて表現している。 |
| 学習問題「これからもスーパーマーケットが続いていくためにどんな取り組みが大切なのか」 | | | |
| 第二次 ⑪ ボン・マルシェとイオンの取り組み | <ul style="list-style-type: none"> ◎店内図から見学で調べる視点を決め、計画を立てる ●ボン・マルシェ社店を見学し、分かったことを交流する。 ○ボン・マルシェがCGCやCoGCaに加盟している理由を考える。 ○イオンが全てのトップバリュ商品を環境配慮3R商品に切り替えようとしている理由を考える。 ○ボン・マルシェとイオンが地域の団体に寄付している理由を考える。【本時】 ○ボン・マルシェとイオンが地域で作られた商品を販売している理由を考える。 ◎これからスーパーが続いていくために大切なことを考えてまとめる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「ねだん」「サービス」「レイアウト」「商品」の視点で消費者の願いを踏まえた取り組みを整理できるようにする。 ・見学へ行く際にインタビューする時間を設定し、調べていく中ででてきた疑問を解決できるようにする。 ・イオンの「トップバリュ」や「WAON」と比較し、複数の企業が協力して大手スーパーに対して対策していることを捉えることができるようにする。 ・「トップバリュ」と他の商品を比較したり、イオン系列の店舗数を示したりして、全国展開する大手スーパーの取り組みが持続可能な社会に大きく貢献していることを捉えることができるようにする。 ・ボン・マルシェとイオンの取り組みを比較し、非営利団体に寄付しているという共通点から、地域の様々な活動を支援していることを捉えることができるようにする。 ・ボン・マルシェとイオンの取り組みを比較し、地産地消の商品の展示の仕方や産地などの共通点から、身近な地域でつくられた商品は新鮮で安心感が得られやすいことを捉えることができるようにする。 ・まとめる際に再度、お店が必要なのかを問い、これからのスーパーが消費者だけでなく、地域や社会のためにも必要であることを捉えることができるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・販売側が消費者のニーズを踏まえて様々な工夫をしていることを理解している。 ・見学を通して調べた取り組みを視点ごとに整理することができる。 ・販売店同士が協力する意図を、消費者と販売店の立場から考えて表現している。 ・販売店が環境に配慮した商品を販売する意図を、消費者と販売店の立場から考え表現している。 ・販売店が地域の団体に寄付をする意図を、消費者と販売店、地域の団体の立場から考え表現している。 ・地産地消の取り組みの意図を販売店と消費者、生産者の立場から考えて表現している。 ・スーパーが商品を販売するだけでなく、持続可能な社会に向けて貢献していることも踏まえ、これからのスーパーに求められる取り組みについて考え表現している。 |
| 第三次 ③ 他のお店の取り組み | <ul style="list-style-type: none"> ●自分たちの住んでいる地域のお店について調べ、取り組みの良さをポスターにまとめる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・買い物調べの学習を想起させ、お家でよく行くお店などから1つ選び、取り組みについて調べてまとめるようする。 ・「価格」「サービス」「レイアウト」「商品」「貢献」の視点で整理した後、イオンやボン・マルシェと比べて特徴的な良さをポスターで表現できるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習したことをいかして、他の飲食料点小売業が売り上げを高めるために消費者のニーズを踏まえた取り組みや、持続可能な社会を目指した取り組みを行っていることを調べ、ポスターにまとめている。 |

5 評価規準

| 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| 複数のスーパーを見学・調査し、販売の仕事は消費者のニーズを踏まえた取り組みをしたり、持続可能な社会に貢献したりしていることを理解している。 | 販売店が行っている様々な取り組みを「生産者」「消費者」「販売店」の視点で捉え、様々な立場の人々の生活との関連を考え、表現している。 | 地域にある販売の仕事について、主体的に見学計画を立てて見学したり、学習をふり返ったりして、これからのスーパーマーケットに求められる取り組みを追究しようとしている。 |

6 知識の構造図



7 本時の学習（全16時間の第10時）

（1）目標

ボン・マルシェやイオンが地域の団体に寄付している取り組みを、販売店や寄付を受けている団体、消費者の立場に立って考え、消費者のレシートが販売店を通じて地域団体の活動の支援となり、活動に共感した消費者が来店することで売上げを高めることにつながることを理解することができる。

（2）展開

| 学習活動 | 教師の働きかけ | 評価の視点となる 子どもの姿 |
|--|---|---|
| <p>1 課題を設定する。</p> <p>資料1 ボン・マルシェ社店にある寄付の箱</p> <p>資料2 イオン社店にある寄付の箱</p> | <p>・資料1・2を提示し、寄付の箱はボン・マルシェの店長が企画して設置したものであること、売上げから寄付していること、イオンも同じような取り組みをしていることに気づかせ、その理由について課題を設定できようにする。</p> | <p>・売上げの一部を団体に寄付している取り組みに着目して、本時の課題を理解している。</p> |
| <p>なぜ、売上げを地いきの団体に寄付しているのだろう</p> | | |
| <p>2 課題に対する予想を立て、資料をもとに寄付をする理由を考える。</p> <p>資料3 イオンの黄色いレシートに関する動画</p> <p>資料4 2店の寄付している団体の名前</p> <p>資料5 寄付を受けている団体の話</p> | <p>・前時までの学習を想起させ、誰にとって良い取り組みなのかを問い、立場を明確にして考えられるようにする。</p> <p>・資料3を提示し、どちらの販売店も毎月集まったレシートの一部を団体に寄付していることや、消費者が寄付する団体を選べることに気づけるようにする。</p> <p>・資料4を提示し、どちらの販売店も地域の非営利団体に寄付していることに気づけるようにする。</p> <p>・資料5を提示し、寄付を受けている団体が活動の際にボン・マルシェ社店を選んで商品を購入していることから、客数が増えて売上げを高めることにつながることに気づけるようにする。</p> | <p>・様々な立場に立って、課題に対する予想を立てている。</p> <p>・資料からボン・マルシェとイオンの寄付の取り組みを比較し、共通点を見出している。</p> <p>・資料と資料を関連付けて、販売店や寄付を受けている団体の立場に立って、寄付の取り組みを行なっている理由を考えて表現している。</p> |
| <p>3 他の立場の視点で寄付の取り組みを問い直す。</p> | <p>・「寄付を受けている団体とは関係のない消費者」からみた良さは何かを問い、消費者の選択が地域の団体への貢献につながることに気づけるようにする。</p> | <p>・消費者の立場に立って寄付の取り組みを問い直し、消費者の選択が地域貢献につながることを理解している。</p> |
| <p>4 2店の店長の話を読み、地域の団体に寄付をする理由をまとめる。</p> <p>資料6 2人の店長のインタビュー記事</p> | <p>・2人の店長の話から、寄付の取り組みによって、地域の活動が持続し、さらには、お店の取り組みに共感した消費者が来店するようになり、お店の売上げが高まることにつながることを理解できるようにする。</p> | <p>・2人の店長の話から、売上げを地域の団体に寄付をする理由をまとめることができている。</p> |
| <p>5 本時の学びをふり返る。</p> | <p>・スーパーマーケットが続いていくために必要な取り組みなのかを問い、その理由をふり返りに書かせる。</p> | <p>・これからのスーパーマーケットについて考えてふり返ることができている。</p> |